

津和野町内遺跡発掘調査報告書 5

平成23年（2011）9月
島根県津和野町教育委員会

序 文

山陰の小京都として知られる津和野町には、恵まれた自然環境の中で先人たちが生活していた証である貴重な文化財が数多く残されています。

今回、町内での開発事業に先立って試掘・確認調査をおこないました。縄文時代から近代にかけての遺跡が存在していることが明らかとなり、町内の歴史の一端が次第に明らかになってきました。これらの調査結果は、報告書としてまとめられ今回で5冊目となりました。

本書が埋蔵文化財の理解・普及に寄与し、学校教育・社会教育・学術研究の一資料として活用していただければ幸いです。最後になりましたが、発掘調査に際して多大なご理解・ご協力をいただきました関係各位に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成23年9月20日

津和野町教育委員会
教育長 斎藤 誠

例　　言

1. 本書は津和野町教育委員会が文化庁、島根県の補助を受けて平成 21~23 年度(2009~2011)に実施した、津和野町内遺跡の試掘確認調査・学術調査（保存目的）報告書である。

2. 調査体制は、下記のとおりである。

調査指導 島根県教育委員会文化財課

調査主体 津和野町教育委員会

事務局	津和野町教育委員会	教育長	齋藤 誠
		教育次長	廣石 修 (平成 22 年 3 月 31 日まで)
			世良 清美 (平成 23 年 4 月 1 日から)
		次長補佐	世良 清美 (平成 22 年 3 月 31 日まで)
			斎藤 道夫 (平成 22 年 4 月 1 日から)
		文化振興係長	米本 潔
調査員		文化財係長	中井 將胤
		主 幹	宮田 健一
調査補助員		嘱 託	永田 茂美
		嘱 託	椋木 牧子

調査作業員 森元定見・久保政幸・大井将正・渡辺正美・高田憲一・小野寺辰男
藤村 浩・三宅和子・有福正之・佐伯昌俊・松元章徳・乾 茂年
樋口雄也・中島和希

3. 調査にあたっては、下記の方々にご指導、ご協力いただいた。記して謝意を表します。
(敬称略・順不同)
白石太一郎（国立歴史民俗博物館名誉教授）、奥田 尚（樞原考古学研究所共同研究員）、
亀井茲基（亀井温故館理事長）、内田大輔（奈良大学）
4. 発掘調査に際しては、土地所有者をはじめとして、地元の方々に始終多大な協力をいただいたことに、ここに感謝の意を表したい。
5. 今回の調査において、現場あるいは編集に利用した地図は、都市計画図の 1/2,500、津和野町管内の 1/25,000 等を使用した。また調査地点名は全て大字や小字をもって称することとし、末尾に地区を附して統一している。
6. 調査に伴う記録類および出土遺物は、津和野町教育委員会で保存している。
7. 本書は中井が編集に当たり、宮田・永田・椋木の協力を得た。

目 次

第1章　はじめに.....	1
第2章　試掘調査概要（緊急目的）	
第1節　平成21年度（2009）	
第1項　森村地区.....	5
第2項　高峯地区.....	8
第3項　中川地区.....	11
第4項　後田地区.....	14
第5項　畠迫地区.....	23
第2節　平成22年度（2010）	
第1項　鶴原地区.....	26
第2項　枕瀬地区.....	35
第3項　添谷地区.....	38
第3章　学術調査概要（保存目的）	
第1節　亀井家墓所	
第1項　はじめに.....	51
第2項　調査区の設定.....	51
第3項　発掘調査の概要.....	53

図・挿図 目次

第 1 図 位置図.....	2
第 2 図 調査地位置図.....	3. 4
第 3 図 森村地区（2009）試掘調査配置図.....	6
第 4 図 高峯地区（2009）試掘調査配置図.....	9
第 5 図 中川地区（2009）試掘調査配置図.....	12
第 6 図 後田地区 I （2009）試掘調査配置図.....	15
第 7 図 後田地区 II （2009）試掘調査配置図.....	18
第 8 図 後田地区 III （2009）試掘調査配置図.....	21
第 9 図 烟迫地区（2009）試掘調査配置図.....	24
第 10 図 鷺原地区 I （2010）試掘調査配置図.....	27
第 11 図 鷺原地区 II （2010）試掘調査配置図.....	30
第 12 図 鷺原地区 III （2010）試掘調査配置図.....	33
第 13 図 枕瀬地区（2010）試掘調査配置図.....	36
第 14 図 添谷地区 I （2010）試掘調査配置図.....	39
第 15 図 添谷地区 II （2010）試掘調査配置図.....	42
第 16 図 添谷地区 III （2010）試掘調査配置図.....	45
第 17 図 添谷地区 IV （2010）試掘調査配置図.....	48
第 18 図 調査区位置図.....	50
第 19 図 T P 1 土層図（南壁）.....	53
第 20 図 T P 2 土層図（南壁）.....	54
第 21 図 T P 3 土層図（東壁）.....	55

第1章 はじめに

1. 調査目的

この事業は、町内で頻発する民間事業・公共事業に対応するため、発掘調査・踏査を実施することによって、町内に所在する埋蔵文化財を適切に保護し、将来に向けて保存を図ることを目的とする。また、遺跡等の保存を目的とした学術調査を実施する。

2. 調査の経過

津和野町教育委員会では、開発事業に際して文化財の有無照合があった場合、試掘調査をおこない、埋蔵文化財の遺存状況の確認に努めている。

3. 調査地点

実施した試掘調査・学術調査は第1表の通りである。また調査場所については、第2図に記した。なお、第2図に記されている番号は、第1表の番号と一致する。(番号は調査順とする。)

第1表 試掘調査・学術調査 一覧

番号	年度	月	遺跡名・地区名	住所
1	21(2009)	4月	森村地区 (試掘) 1ヶ	津和野町森村ハ 11-15
2	21(2009)	4月	高峯地区 (試掘) 1ヶ	津和野町高峯 517 他
3	21(2009)	5月	中川地区 (試掘) 1ヶ	津和野町中川 6-1
4	21(2009)	7月	後田地区 (試掘) 5ヶ	津和野町後田口 463-3、65-28 口 66 3ヶ所
5	21(2009)	12月	畠迫地区 (試掘) 1ヶ	津和野町畠迫 349-15
6	22(2010)	4月～	鷺原地区 (試掘) 3ヶ	津和野町鷺原 1-3、口 333-1 口 52
7	22(2010)	4月～	枕瀬地区 (試掘) 1ヶ	津和野町枕瀬 975-1
8	22(2010)	12月	添谷地区 (試掘) 4ヶ	津和野町添谷 287-3、236 204、164-1
9	22(2010)	4月～	亀井家墓所 (学術) 4ヶ	津和野町後田地内

4. 位置と歴史的環境

津和野町は、島根県西部に位置し(第1図)し、北・東側が益田市、南側が吉賀町、西側が山口県に接した位置に存在する。

そして東西 27km・南北 19km を測り、総面積が 307.09 km² となる。

また、総面積の約 8 割以上が山林で、高津川や津和野川の流域とその支流が入り込み、流域に市街地・集落・農地が点在し、まさに典型的な中山間地域である。

津和野町には、これまでに多くの遺跡等が確認され発掘調査等を実施している。そして、いまのところ後期旧石器時代にまで遡る。旧石器は町内で唯一ナイフ形石器が喜時雨遺跡から出土している。高田遺跡、山崎遺跡からは押型文土器が出土している。また高田遺跡からは中期の阿高式、後期中頃の鍋崎式土器がまとまって発見され、対岸の大蔭遺跡からは後期後半の西平式土器が採集されるなど、当時この地域が九州地方の情報の及ぶ範囲であったことが窺える。

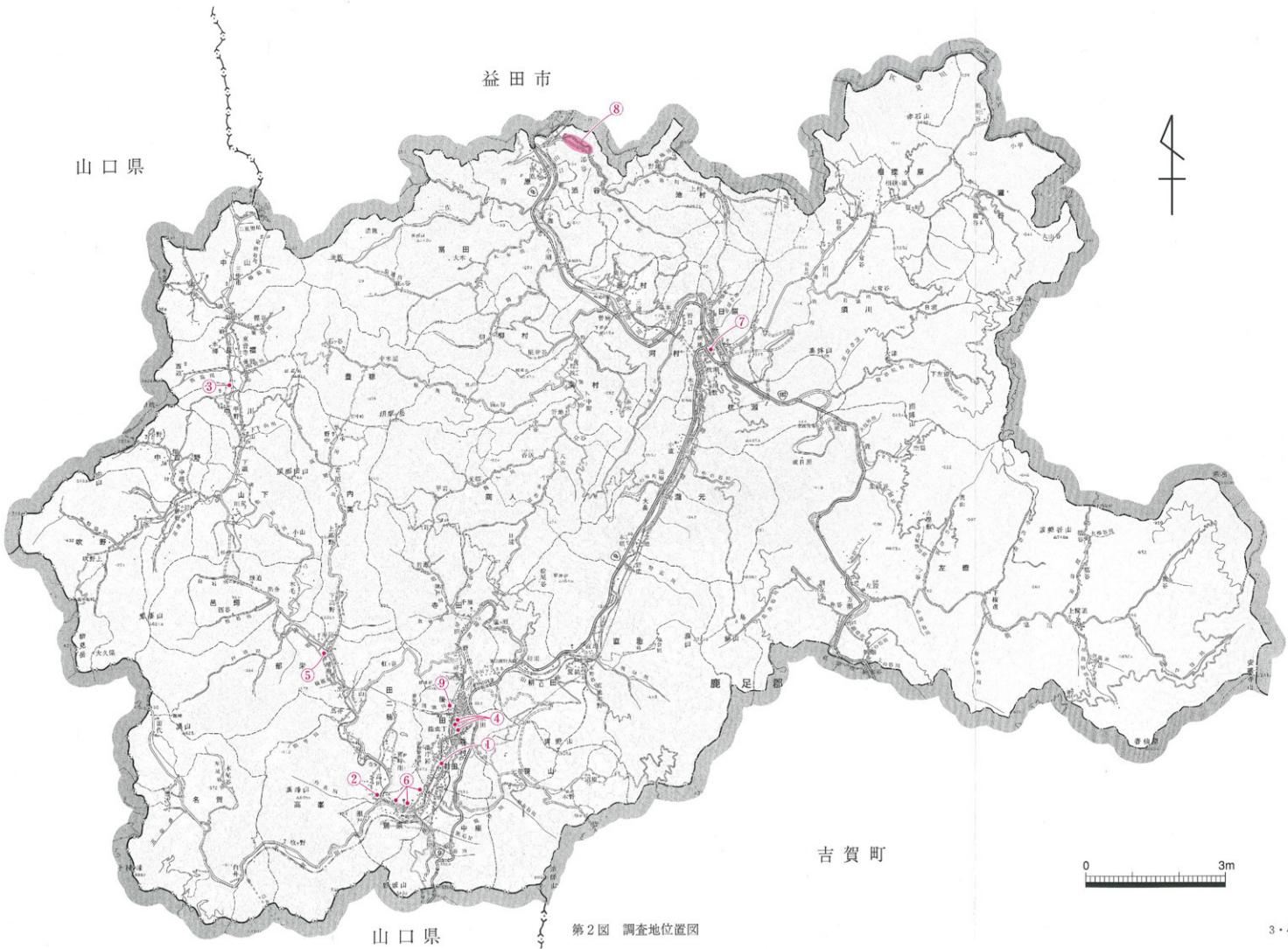
弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての集落が高田遺跡で確認され、在地の土器群に混じって吉備地方から運ばれてきた外来の土器が発見されている。



第1図 位置図

中世津和野の領主吉見氏は、弘安 5 (1282) 年に元寇再防備のため能登国から津和野北部の木部地区に入り、その後 14C 代に津和野城を構えたと伝えられている。文献では吉見氏入部以前の記録はほとんど残されていないが、これまでの高田遺跡の発掘調査では 12・13C 代の白磁が大量に出土しており、吉見氏入部以前に津和野地方に有力者が存在していたことが考古学的証拠によって明らかになりつつある。中世の津和野城の大手口は近世以降の大手口とは反対側の喜時雨にあったと伝えられ、吉見氏の居館も同時に存在していたとするのが通説である。

関ヶ原の戦後、吉見氏は毛利氏に伴い萩に移るが、その後坂崎出羽守の 16 年間の治領となり、津和野城の大改築・城下町整備など、現在の町並みの基礎となる大事業が行われた。その後、亀井氏 11 代 225 年間の治世を経て明治維新を迎えることとなる。



第2章 試掘調査概要（緊急目的）

第1節 平成21年度（2009）

第1項 森村地区

①住所 津和野町森村ハ11-15

②調査原因 個人住宅新築予定

③調査内容 新築予定範囲のうち、浄化槽設置予定地を対象にし、試掘調査を1ヶ所実施。

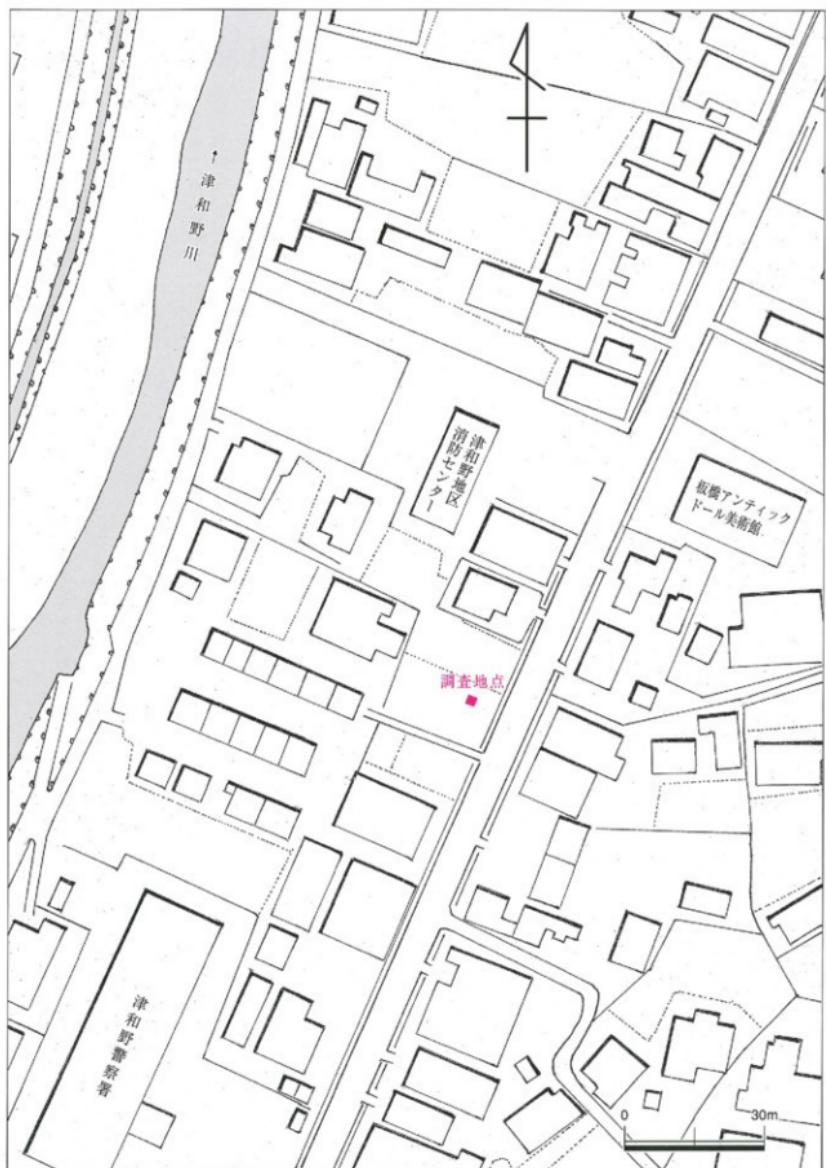
④調査結果 遺跡（城下町遺跡）の存在を確認した。

⑤遺跡の時代と種類 室町時代、近世（江戸時代）の城下町

⑥主な発見遺構 外堀

⑦主な出土物と概数 土師質土器・陶磁器 ピニール1袋、

⑧調査所見 今回の調査地点は津和野城下町遺跡の中でおそらく中級武家屋敷内であると思われた。ただし、東側の県道に近い部分は外堀を埋めたてた場所であることが、これまでの発掘調査の成果でも分かっていた。今回の調査地点は、県道に近い部分であったため外堀部分であることが確認された。しかし、調査区に制限があるため外堀の幅などを確認することはできなかった。今回の工事等で遺跡が破壊されることはないと判断した。



第3図 森村地区（2009）試掘調査配置図



写真 1 調査地点近景



写真 2 完掘状況

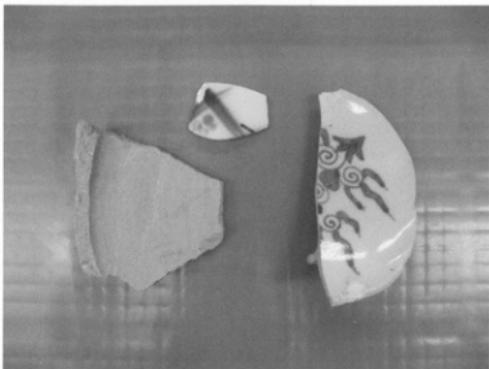


写真 3 出土遺物

第2項 高峯地区

①住所 津和野町高峯 517 他

②調査原因 NTT ドコモ無線基地局新設工事

③調査内容 無線基地局鉄塔基礎予定地を対象にし、試掘調査を1ヶ所実施。

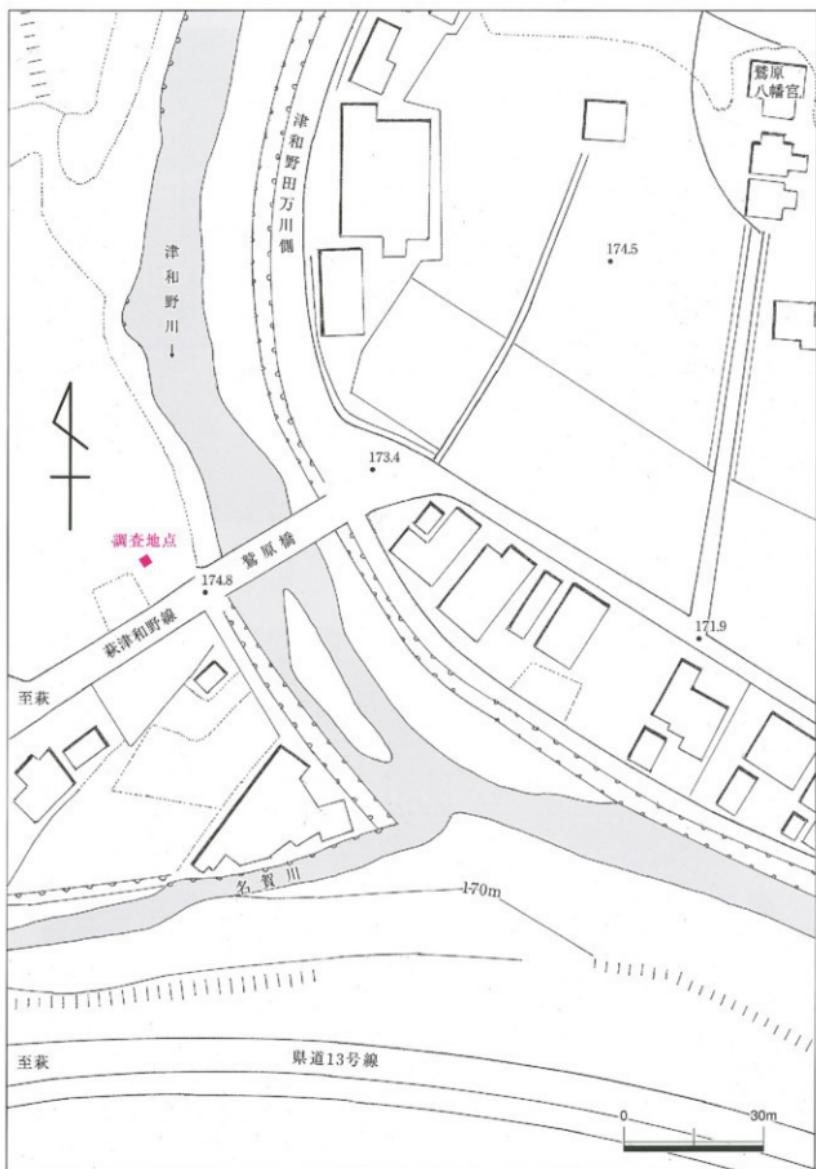
④調査結果 近辺にある高田遺跡の範囲には入らないと判断した。

⑤遺跡の時代と種類 高田遺跡（縄文・弥生・中世時代）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土遺物と概数 なし

⑧調査所見 今回の調査地点は高田遺跡の北西端部であり津和野側に隣接した地点であった。そして、工事で掘削する深さが約1.5mであるため、そこまで発掘調査を実施したが遺物・遺構等は確認することは出来なかった。おそらく津和野川の氾濫等で破壊された地点か、もう少し深い所に遺跡が存在しているのではないかと判断した。そのため今回の工事等で遺跡を破壊されることはないと判断した。



第4図 高峯地区（2009）試掘調査配置図



写真4 調査地点近景



写真5 完掘状況

第3項 中川地区

①住所 津和野町中川カリヤカ迫 6番1

②調査原因 NTT ドコモ無線基地局新設工事予定

③調査内容 鉄塔工事予定範囲を対象にして試掘調査を実施。

④調査結果 遺跡の存在は確認できなかった。

⑤遺跡の時代と種類 大婦け遺跡（奈良・平安時代）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土品と概調査数 なし

⑧調査所見 当該事業計画区域内において、2m×2m四方の試掘調査を実施した。その結果、遺物、遺構等は確認することはできなかった。しかし、計画予定地の南側100m付近には大婦け遺跡（奈良・平安時代）が確認されている。



第5図 中川地区（2009）試掘調査配置図



写真6 調査区近景

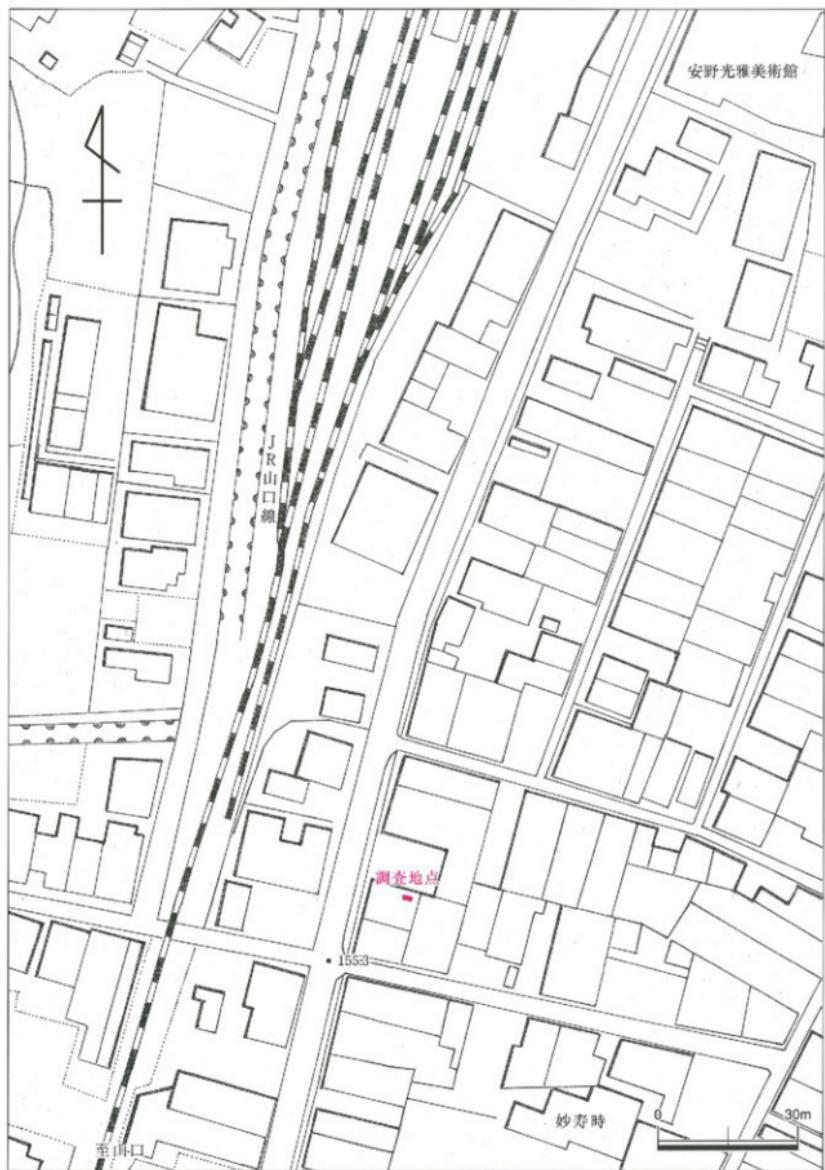


写真7 完掘状況

第4項 後田地区

1) I 地点

- ①住所 津和野町後田口 463-3
- ②調査原因 個人住宅改築予定
- ③調査内容 改築予定範囲のうち、浄化槽設置予定地を対象にし、試掘調査を 1ヶ所実施。
- ④調査結果 遺跡（城下町遺跡）の存在を確認した。
- ⑤遺跡の時代と種類 江戸時代（城下町）
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土遺物 土師・陶磁器類 ピニール 1袋 瓦 ピニール 1袋
- ⑧調査所見 今回の調査地点は津和野城下町遺跡の中でおそらく町屋内であると思われた。ただし、近現代において約 60cm の盛土がなされており、これまでの発掘調査の成果でも分かっていた。
今回の調査地点は、地表面より約 60cm 以下で江戸期の陶磁器片、瓦などが出土したが遺構等の確認はできなかった。今回の工事では地表 60cm 以下を掘削することはないため遺跡が破壊されることないと判断した。



第6図 後田地区I（2009）試掘調査配置図



写真8 発掘調査区近景

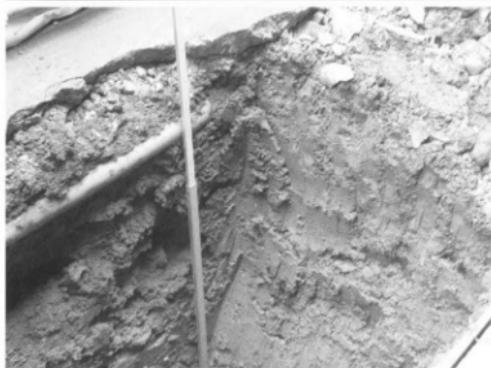


写真9 完掘状況

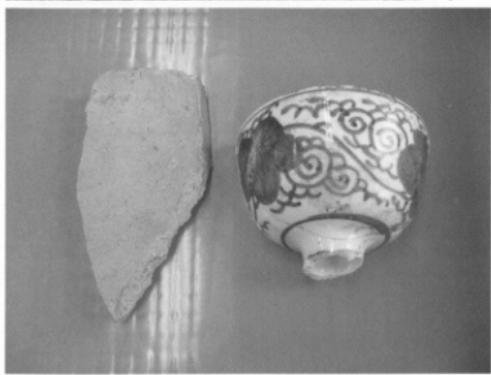


写真10 出土遺物

2) II 地点

①住所 津和野町後田口 65-28

②調査原因 店舗改築予定

③調査内容 改築予定範囲のうち、浄化槽設置予定地を対象にし、試掘調査を 1ヶ所実施。

④調査結果 遺跡（城下町遺跡）の存在を確認した。

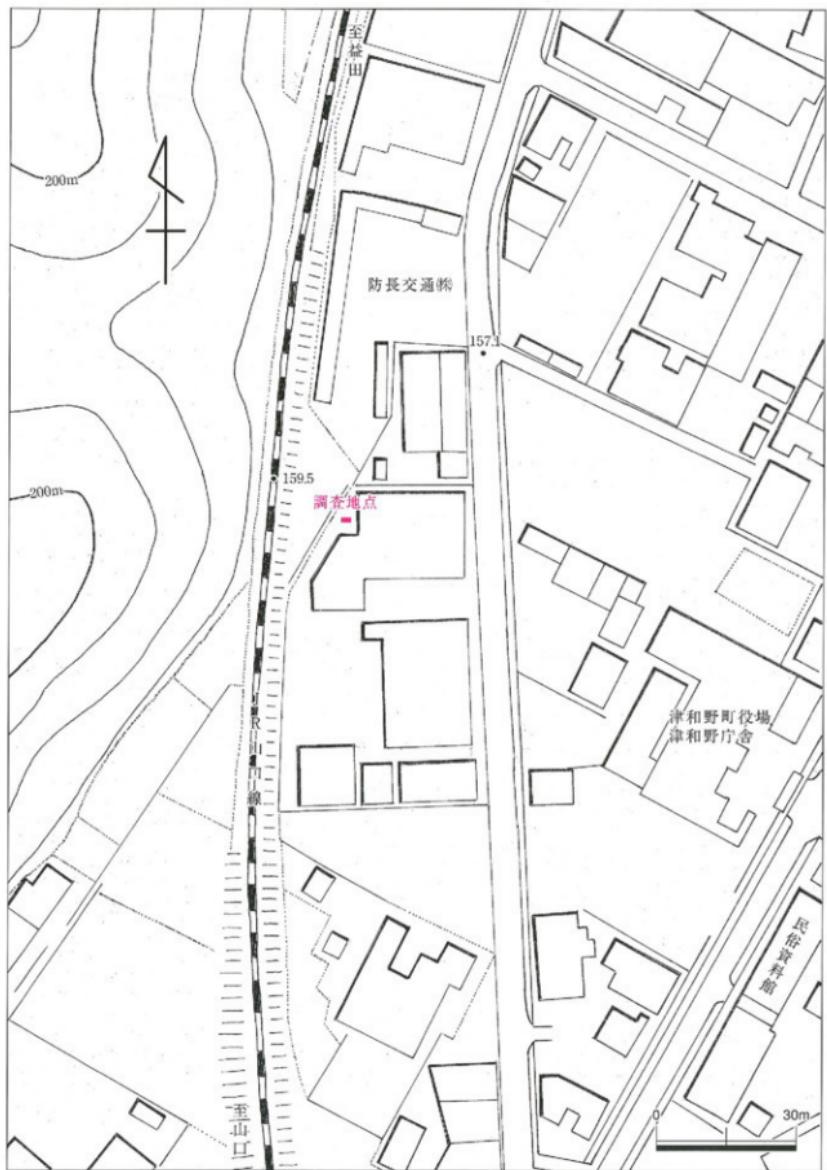
⑤遺跡の時代と種類 江戸時代（城下町）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土遺物 土師・陶磁器類 ピニール 1袋 瓦 ピニール 1袋

⑧調査所見 今回の調査地点は津和野城下町遺跡の上級武家屋敷内であると思われた。ただし、近現代において約 60cm の盛土がなされており、これまでの発掘調査の成果でも分かっていた。

今回の調査地点は、地表面より約 60cm 以下で江戸期の陶磁器片、瓦などが出土したが遺構等の確認はできなかった。今回の工事では地表 60cm 以下を掘削することはないため遺跡が破壊されることないと判断した。



第7図 後田地区Ⅱ（2009）試掘調査配置図



写真 11 調査区近景



写真 12 完掘状況

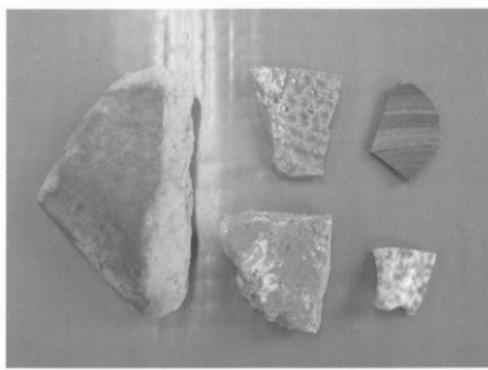


写真 13 出土遺物

3) III地点

①住所 津和野町後田口 66

②調査原因 保育園改築予定

③調査内容 改築予定範囲のうち、基礎部分予定地を対象にし、試掘調査を3ヶ所実施。

④調査結果 遺跡（城下町遺跡）の存在を確認した。

⑤遺跡の時代と種類 江戸時代（城下町）、室町時代（一部）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土遺物 土師・陶磁器類 ピニール1袋 瓦 ピニール1袋

⑧調査所見 今回の調査地点は、津和野城下町遺跡の上級武家屋敷内（嘉永期まで）、幕末は藩校養老館地内の区域であった。ただし、近現代において開発等により地表面以下約60cmが搅乱され、その上に盛土されている状況であった。

I 調査区は、地表面より約60cm以下で江戸期の陶磁器片、瓦などが出士し、遺構としては礎石と思われた石が確認された。また、150cmの深さで16世紀頃の陶磁器が出土しており、城下町形成以前の痕跡が確認できた。

II 調査区は、地表面より約10cm以下で明治期の屋敷の礎石が検出された。遺構を保護するため、下層は掘削しなかった。

III 調査区は、搅乱された区域であったが、排水施設などが確認されたことから、おそらく池があった場所ではないかと思われた。

⑨その他 本地区は、試掘調査後において本格調査を実施しており、平成21年3月に調査報告書『津和野城下町遺跡4・5』にまとめられている。



第8図 後田地区III（2009）試掘調査配置図



写真 14 調査区全景



写真 15 III調査区近景



写真 16 I調査区完掘状況



写真 17 II調査区完掘状況



写真 18 III調査区完掘状況



写真 19 出土遺物

第5項 煙迫地区

①場所 津和野町部栄 349-15

②調査原因 県道拡幅工事予定

③調査内容 県道拡幅予定範囲のうち1ヶ所選定して試掘調査を実施。

④調査結果 横瀬遺跡が近くにあるが、埋蔵文化財は確認出来なかった。

⑤遺跡の時代と種類 横瀬遺跡（弥生時代）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土遺物と概数 なし

⑧調査所見 横瀬遺跡が隣接しているが、遺跡からは数十m離れているため本試掘調査区からは遺跡に関係する遺構や遺物は確認することはできなかった。また、調査地点は近年盛土した場所である。



第9図 番迫地区（2009）試掘調査配置図



写真 20 試掘調査地近景



写真 21 完掘状況

第2節 平成22年度（2010）

第1項 鷺原地区

1) I 地点

①住所 津和野町鷺原1-3

②調査原因 公衆トイレ新築予定

③調査内容 予定範囲のうち浄化槽設置予定地を対象にして試掘調査を実施

④調査結果 遺跡の存在は確認できなかった。

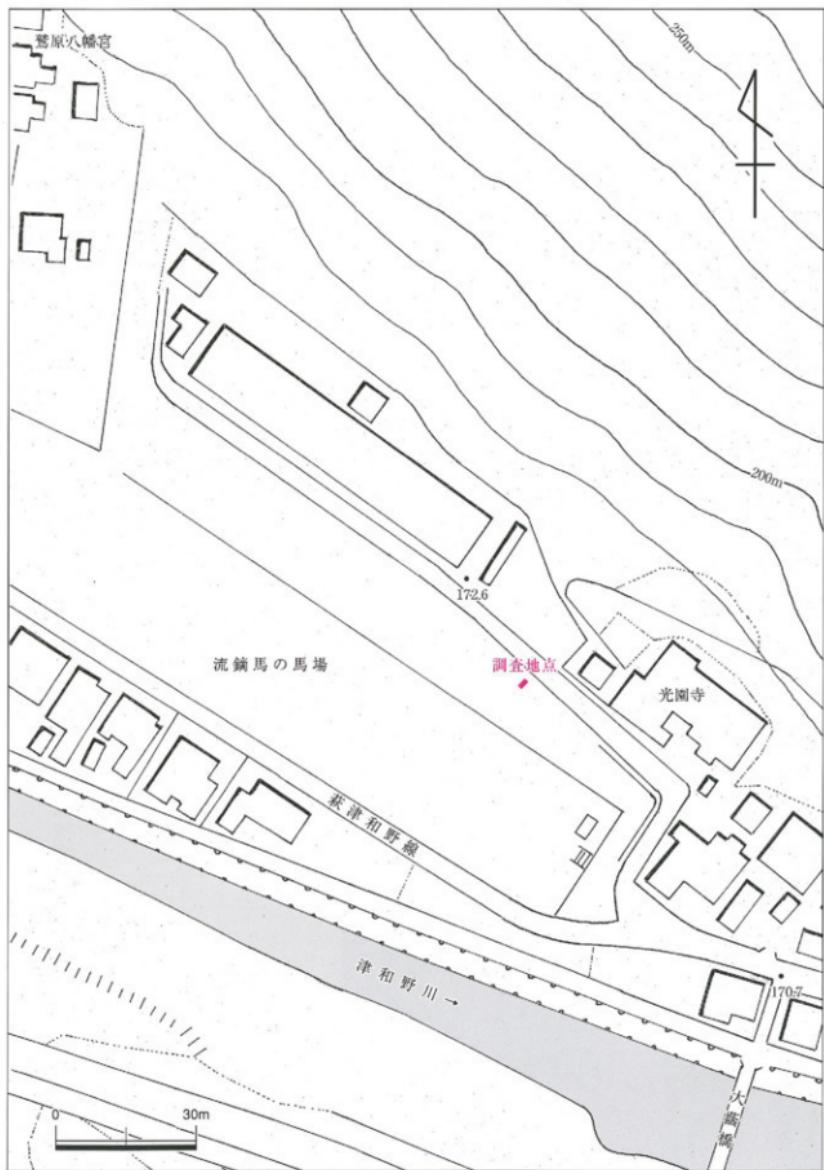
⑤遺跡の時代と種類 津和野城下町遺跡（流鏑馬の馬場付近）

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土遺物と概数 なし

⑧調査所見 今回の調査地点は津和野城下町遺跡の中の鷺原八幡宮地内の馬場付近であると思われた。また、江戸時代においては、寺があったという記録が残っている。

今回の発掘調査では、当時の遺構や遺物を確認することはできなかった。したがって、今回の工事等で遺跡が破壊されることないと判断した。



第10図 鷺原地区I（2010）試掘調査配置図



写真 22 調査地点近景



写真 23 完掘状況

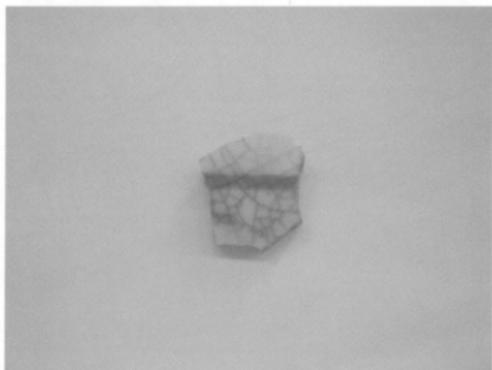
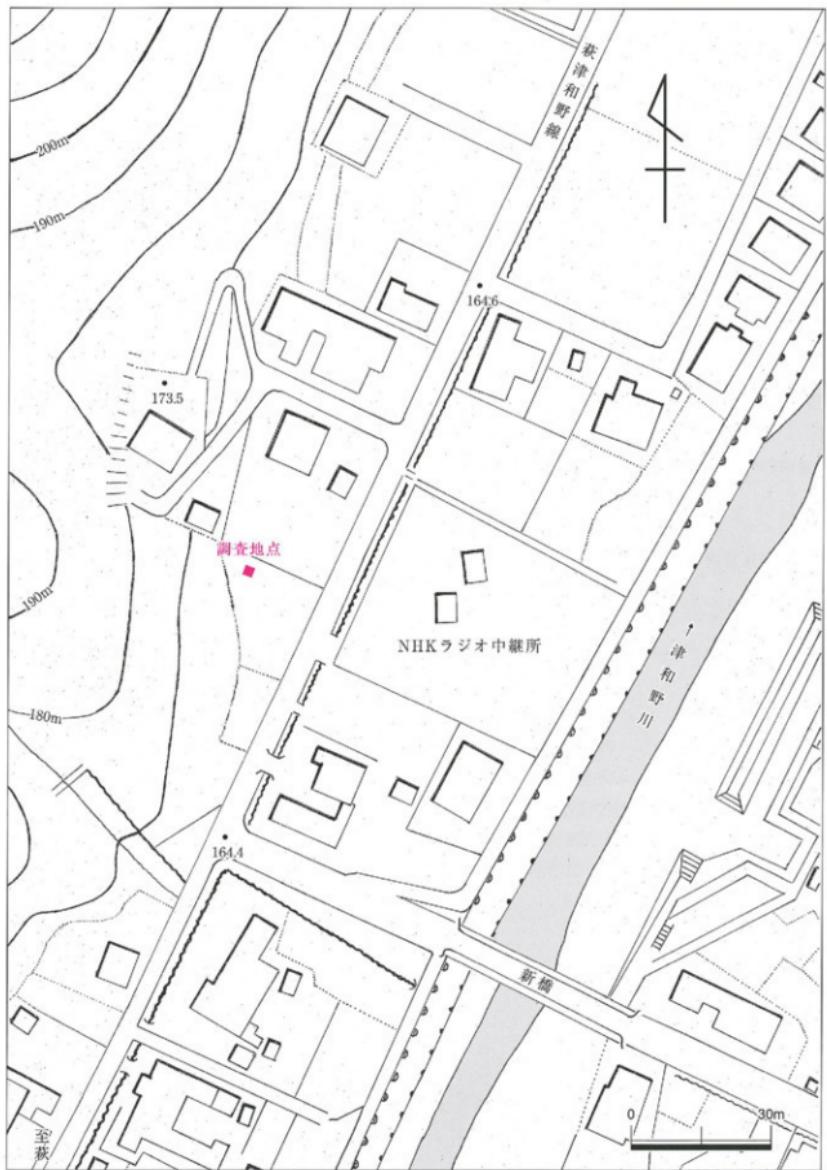


写真 24 出土遺物

2) II 地点

- ①住所 津和野町鶴原口 333-1
- ②調査原因 個人住宅新築予定
- ③調査内容 予定範囲のうち浄化槽設置予定地を対象にして試掘調査を実施
- ④調査結果 津和野城下町遺跡の武家屋敷地内であることが確認できた。
- ⑤遺跡の時代と種類 津和野城下町遺跡
- ⑥主な発見構造 磁石等
- ⑦主な出土遺物と概数 土師・陶磁器類 ピニール 1 袋 瓦 ピニール 1 袋
- ⑧調査所見 今回の調査地点は、津和野城下町遺跡の中でおそらく中級武家屋敷内であると思われた。地表から約 60 cm の層から多くの遺物や炭などが出土し、磁石ではないかと思われた石も検出された。
今回の工事等では、新築工事に伴い現況地面から約 50 cm ほど盛土をする計画であり、基礎工事によって遺跡が破壊されることはないと判断した。



第11図 鶴原地区II（2010）試掘調査配置図



写真 25 調査区近景



写真 26 完掘状況

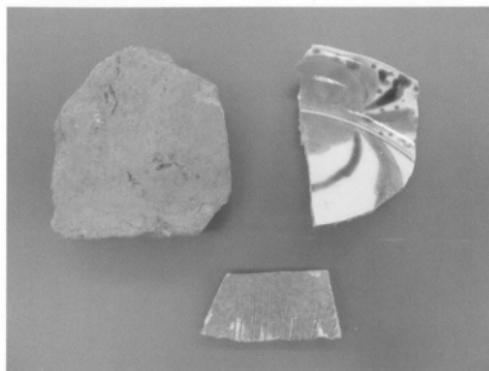
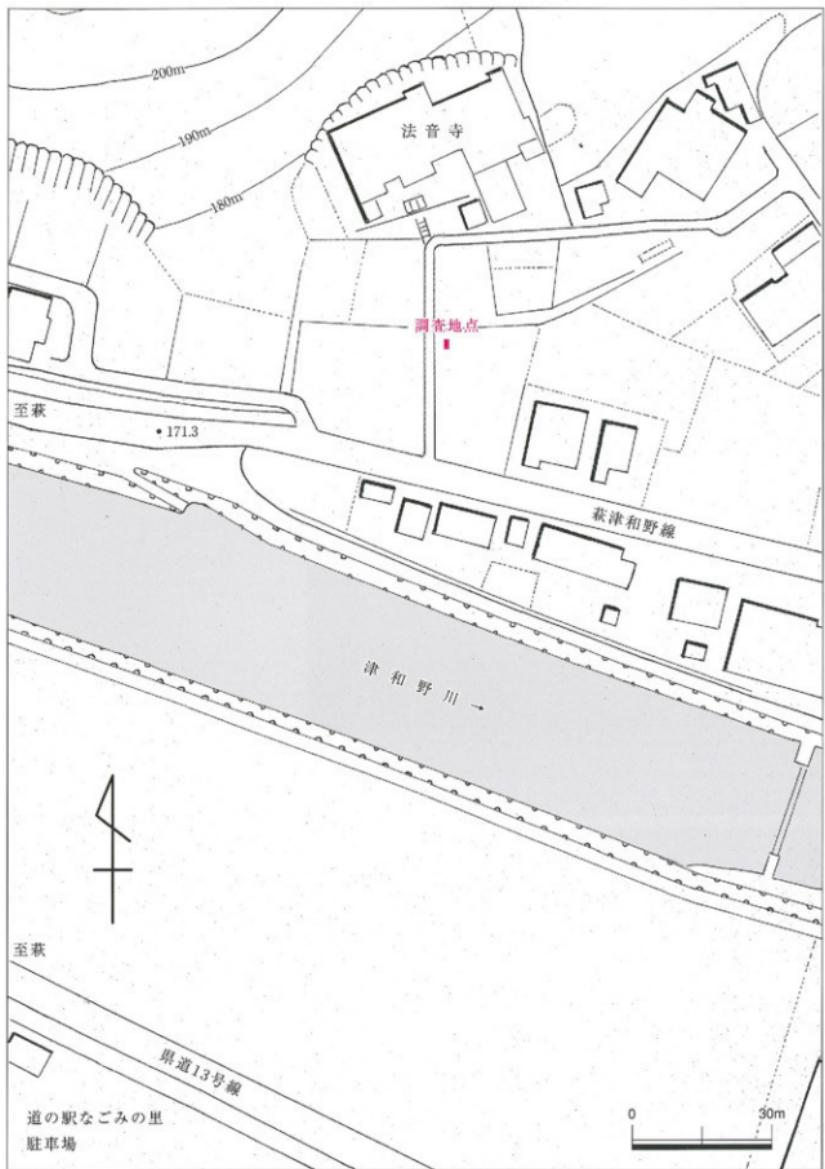


写真 27 出土遺物

3) III地点

- ①住所 津和野町鷺原口 52
- ②調査原因 園場整備事業予定
- ③調査内容 予定範囲のうち任意に 1×2 m の試掘調査を実施
- ④調査結果 津和野城下町遺跡の屋敷地内であることが確認できた。
- ⑤遺跡の時代と種類 津和野城下町遺跡
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土遺物と概数 土師・陶磁器類 ピニール 1 袋 瓦類 ピニール 1 袋
- ⑧調査所見 今回の調査地点は、絵図から判断して津和野城下町の下級武家屋敷内であると思われた。地表から約 40 cmまでの層は、現代の耕作土であり、その下層から遺物や炭などが出土した。おそらく地表下約 55 cmが幕末期の遺構面付近であると判断した。
今回の工事等では、現況地面から約 30 cmほど掘削する計画であり、園場整備によって遺跡が破壊されることはないと判断した。



第12図 鶴原地区III（2010）試掘調査配置図



写真 28 調査区近景

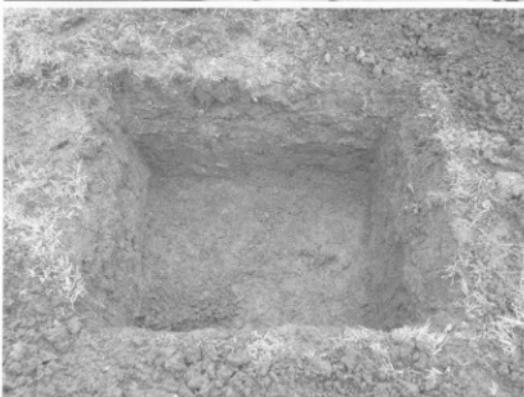


写真 29 完掘状況



写真 30 出土遺物

第2項 枕瀬地区

- ①住所 津和野町枕瀬 975-1
- ②調査原因 消防分遣所、駐在所新築予定
- ③調査内容 予定地内に任意に 1×2 m の試掘調査を実施
- ④調査結果 枕瀬遺跡が近くにあるが、本調査区からは遺跡等確認することは出来なかった
- ⑤遺跡の時代と種類 枕瀬遺跡（縄文時代）
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土物と概数 なし
- ⑧調査所見 今回の調査は、北西の方向約 300m に枕瀬遺跡が確認されていることから実施された。調査の結果、遺物・遺構とも検出されなかった。そのため枕瀬遺跡が今回の調査地点（開発予定地内）まで広がっている可能性は無いと判断した。



第13図 枕瀬地区（2010）試掘調査配置図



写真 31 調査区近景



写真 32 完掘状況

第3項 添谷地区

1) I 地点

①住所 津和野町添谷 287-3

②調査原因 中山間総合整備事業（圃場整備）

③調査内容 事業予定範囲のうち、 1×2 mの試掘調査を1ヶ所実施。

④調査結果 遺跡の存在を確認することは出来なかった。

⑤遺跡の時代と種類

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土物と概数 なし

⑧調査所見 今回の調査では、遺物や遺構などは検出されなかった。本地区において遺跡は確認されなかった。



第14図 添谷地区I（2010）試掘調査配置図



写真 33 調査区近景



写真 34 完掘状況

2) II 地点

①住所 津和野町添谷 236

②調査原因 中山間総合整備事業（圃場整備）

③調査内容 事業予定範囲のうち、 1×2 mの試掘調査を1ヶ所実施。

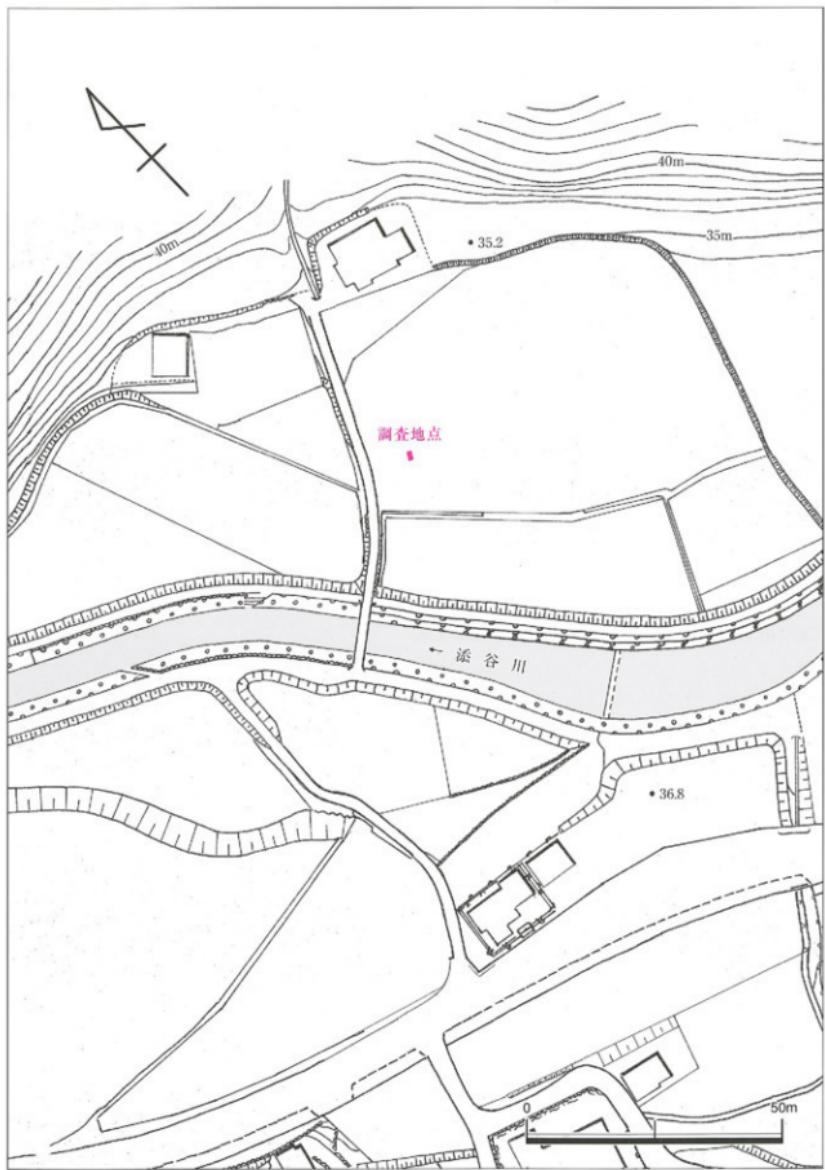
④調査結果 遺跡の存在を確認することは出来なかった。

⑤遺跡の時代と種類 室町時代

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土物と概数 陶磁器3点 瓦質土器1点

⑧調査所見 今回の調査で確認された地点は、添谷川の右岸に位置し、標高約35mの所で、現代は水田である。調査の結果、地表から約60cm下から陶磁器片や瓦質土器などが出土し、これらの遺物が室町時代のものと判断され、調査区周辺が室町時代の遺跡であることが判明した。この地が久田ということから「久田遺跡」と命名した。



第15図 添谷地区II（2010）試掘調査配置図



写真 35 調査区近景

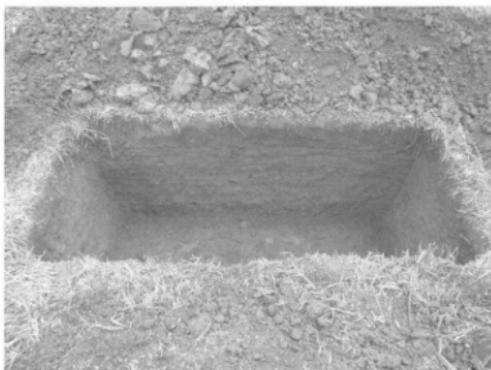


写真 36 完掘状況

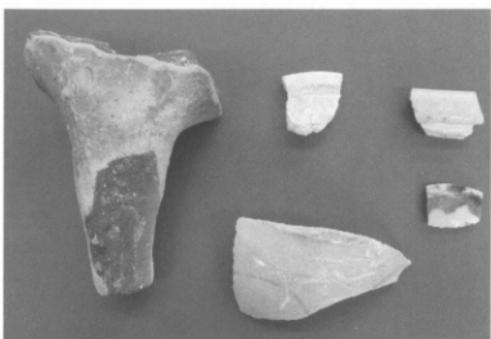


写真 37 出土遺物

3) III地点

①住 所 津和野町添谷 204

②調査原因 中山間総合整備事業（圃場整備）

③調査内容 事業予定範囲のうち、1×2mの試掘調査を1ヶ所実施。

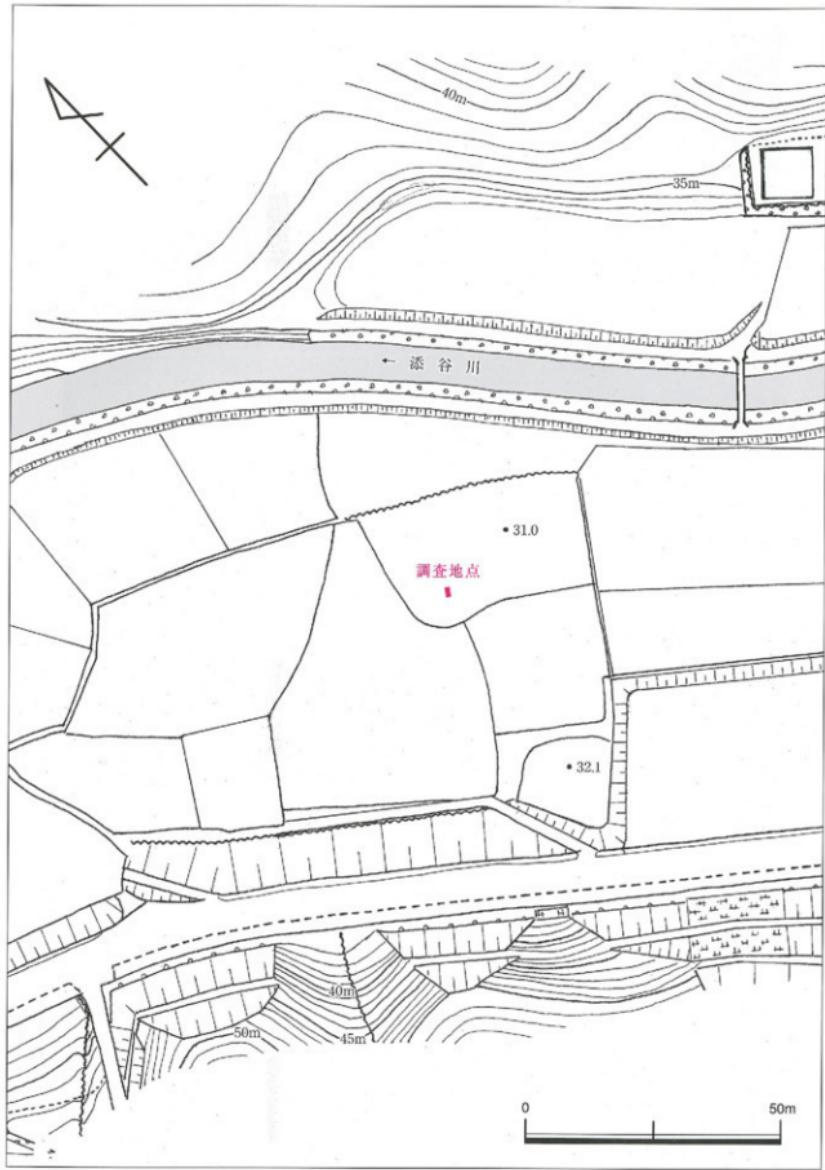
④調査結果 遺跡の存在を確認することは出来なかった。

⑤遺跡の時代と種類 室町時代

⑥主な発見遺構 なし

⑦主な出土物と概数 陶磁器3点 瓦質土器1点

⑧調査所見 今回の調査では、遺物や遺構などは検出されなかった。本地区において遺跡は確認されなかった。



第16図 添谷地区III（2010）試掘調査配置図



写真 38 調査区近景

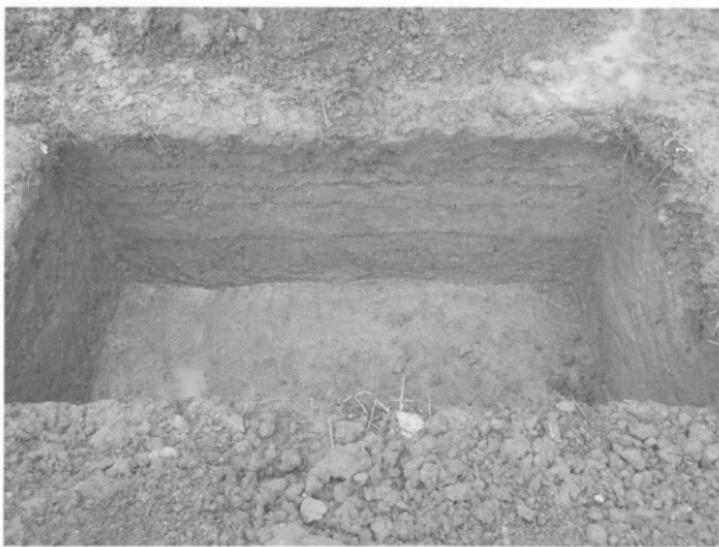
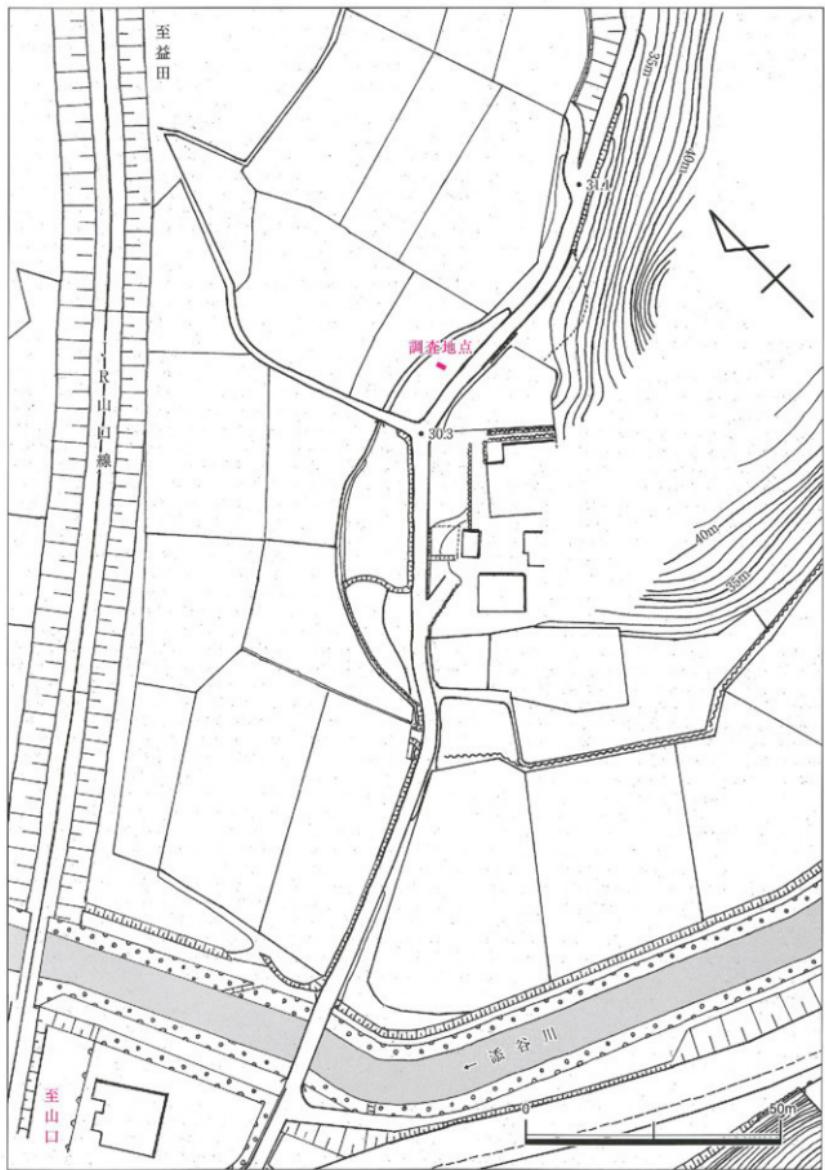


写真 39 完掘状況

4) IV地点

- ①住所 津和野町添谷 164-1
- ②調査原因 中山間総合整備事業（圃場整備）
- ③調査内容 事業予定範囲のうち、 1×2 mの試掘調査を1ヶ所実施。
- ④調査結果 遺跡の存在を確認することは出来なかった。
- ⑤遺跡の時代と種類 なし
- ⑥主な発見遺構 なし
- ⑦主な出土物と概数 なし
- ⑧調査所見 今回の調査では、遺物や遺構などは検出されなかった。本地区において遺跡は確認されなかった。



第17図 添谷地区IV（2010）試掘調査配置図



写真 40 調査区近景



写真 41 完掘状況

第3章 学術調査概要（保存目的）

第1節 亀井家墓所

第1項 はじめに

本発掘調査は、国指定史跡津和野城跡の保存整備計画の中で、津和野城下町の保存についても検討されており、亀井家墓所もその対象となっている。そのため、地下遺構の保存状況や絵図等の文献資料との確認をするために発掘調査を実施した。また、白石太一郎氏の指導のもと、墓石についての実測や拓本や石材調査も併せて実施した。また、調査の詳細については2011年3月刊行の『津和野藩主亀井家墓所』にまとめている。

1:500
N

第2項 発掘調査

1. 調査の場所

津和野町後田地内

2. 調査対象の文化財及び調査面積

亀井家墓所 10 m²

3. 調査概要

①調査の方法

4ヶ所にトレンチを設定して発掘調査を実施した。また、石塔の実測、拓本、石材調査もあわせて実施した。

②調査区の設定

発掘調査地点を設定するにあたり、墓所の造営状況を把握することを重点に調査地点を4ヶ所設定した（第18図）。しかし、場所によっては墓と墓が隣接している所では発掘するスペースがないため、調査区を自由に設けることは出来ず、南側には調査区を設けることができなかった。

基本的に1m×2mの長方形のトレンチを基準に設け、調査状況によって拡張することにした。



第18図 調査区位置図



写真 42 龜井家墓所正門



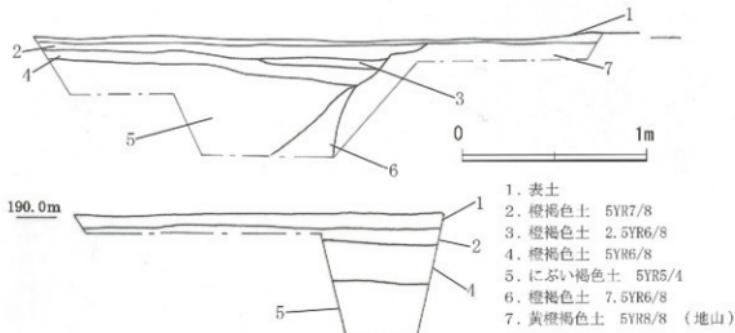
写真 43 龜井家墓所（南側）

② 発掘調査の概要

【調査区 T P 1】

本調査区は、1 m × 5 mの東西に細長く設定した。ほぼ中央付近において切り土と盛土部分が確認された。おそらく西側の山を削り東側へ盛土して平坦部を形成したのではないかと考えられた。城下町形成期である江戸初期に形成された区画なのか、遺物等が出土していないため時期的なことを特定することはできなかった。

表上下は黄褐色土の土を版築工法によって、固められている。参道部分も発掘しているが、参道部分が特別な施行が施されていることはなかった。



第19図 TP 1 土層図（南壁）

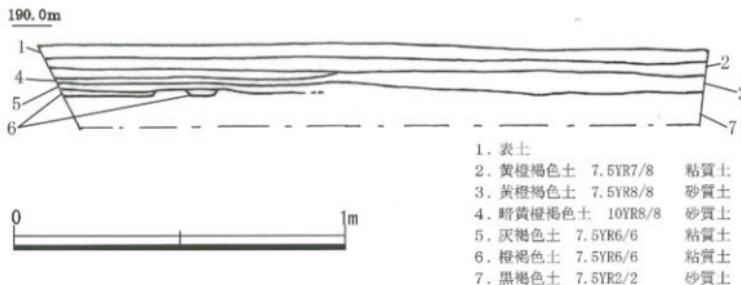


写真44 調査区TP1 完掘状況

【調査区 T P 2】

本調査区は、1m×2mの東西に長く設定した。全体として盛土部分であることは確認できた。地形から見ても谷部に当たることからも、調査区周辺の約20×10mの区域を盛土して平坦部を形成したと思われた。遺物等は出土しなかった。

東側の一部が参道であったが、その部分だけ版築により固められた層を確認した。また、その下層にもう1層検出された。TP 1では確認できなかつたが、おそらく参道部分を他の盛土部分とは区別して整備していると思われた。



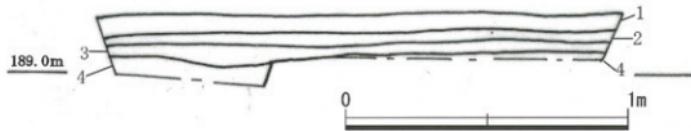
第20図 TP 2 土層図（南壁）



写真45 調査区TP 2 完掘状況

【調査区TP3】

本調査区は、1m×2mの南北に長く設定した。全体として切り土部分であると判断した。地形的にも東側に少し切り出した部分に当たる。表土を掘削すると地山になり、遺物等も確認することはできなかった。



第21図 TP3 土層図(東壁)



写真46 調査区TP3 完掘状況

【調査区TP4】

本調査区は、墓所の東端に1m×2mの南北に長く設定した。TP3区と同様に表土の下層が地山であった。おそらく切り土によって平坦部を作ったものと思われた。遺物等は確認できなかった。



写真47 調査区TP4 完掘状況

【まとめ】

今回の調査では、墓所の形成に関する資料を得るために実施した。4ヶ所の調査区から得られた情報としては、まず、参道について石畳などの特別な施工は施されていなかった。そのため参道と墓石との境界がはっきりしていない。次に墓所として平坦な空間を造るために山の斜面を削りその土を盛り土として利用され平坦面が造成されたと考えられる痕跡が調査区Ⅰの発掘調査から確認することができた。また、調査区Ⅱ付近は盛土、調査区Ⅲ・Ⅳは切土によって平坦面を造ったと考えられた。しかし、これらの調査区からは出土遺物等が検出されなかつたこともあり、造成年代を確定することはできなかつた。

また、発掘調査と並行して墓石の実測および拓本、石材調査を実施した。その成果は2011年3月に刊行した『津和野藩主龜井家墓所』を参考されたい。



写真48 調査指導（白石太一郎氏）

津和野町内遺跡発掘調査報告書 5

平成23年9月

編集 津和野町教育委員会
島根県鹿足郡津和野町後田口64-6
印刷 株式会社ミヤザキ
山口県山口市朝田747-4